

災害救援ロボ開発を奨励

震災で亡き学生の夢継いで



名誉委員長の頼さん(左から2人目)らは、受賞者の(右から)土井さん、山下さんと握手を交わし激励した。15日、神戸市中央区の神戸国際会議場で

災害救援ロボットの授賞式が十五日、神戸市で開かれ静岡大准教授の山下淳准教授(右)に、競基弘賞の授賞状が贈られた。

この賞は、阪神大震災で倒壊した下宿先で命を失い、生前、ドラえもんのような人を癒やし助けるロボット開発を志していた名古屋大学出身の神戸大学院生競基弘さん(当時21)の遺志を継ぐ形で創設された。日本レスキュー工学を担う人材を評価、後押ししている。

競基弘賞に静岡大准教授ら

賞創設後、災害現場で活動するロボット開発への社会の理解も進んできた。あいさつで、名誉委員長の父和巳さん(父)が「選考委員には機械工学や心理学などの先生も参加された。幅広い分野に応用できる可能性を感じた」と成果を期待した。

山下さんは、災害時にロボットが活動するときの画像の視野妨害ノイズを処理する技術開発に貢献。土井さんは、レスキューロボットの平常時の使用技術を考察し、床下点検用ロボットに応用した。

中日新聞 2009年1月16日 朝刊 より

役に立つロボット作り

山下、土井両氏 競基弘賞に輝く

神戸市で開かれた授賞式の様子

阪神・淡路大震災を教訓に、防災や減災について考える「災害対策セミナー」が十五日、神戸市中央区の神戸国際会議場で始まった。神戸市などの主催で二回目。「減災の知恵の共有」をテーマに、十六日までシンポジウムや討論会が開かれる。この日は、巨大地震への備えとして専門家が木造住宅の耐震診断を呼び掛けたほか、新型インフルエンザの大流行を想定した図上訓練



競基弘賞を受けた山下さん(中央)と土井さん(神戸市中央区港島中町6、神戸国際会議場)

も行われた。また、震災で亡くなった神戸大大学院生競基弘さん(当時21)の夢だった「人の役に立つロボット作り」にちなんで、防災や人命救助の研究開発で業績を上げた若手研究者に贈られる「競基弘賞」が授賞された。

た神戸大大学院生競基弘さん(当時21)の夢だった「人の役に立つロボット作り」にちなんで、防災や人命救助の研究開発で業績を上げた若手研究者に贈られる「競基弘賞」が授賞された。授賞式は、後、レスキューロボットや防災用の監視カメラなどに応用したい」と話していた。(今泉欣也)

賞」の表彰式があった。今年、レスキューロボットを日常もシリアリ駆除に活用できるようにした大阪府立工業高等専門学校(大阪府)の土井智晴准教授(博士)と、カメラのレンズに付着した泥や水滴の汚れを画像処理で取り除く方法を開発した静岡大工学部の山下淳准教授(博士)が受賞。山下准教授は「この賞は、阪神大震災で倒壊した下宿先で命を失い、生前、ドラえもんのような人を癒やし助けるロボット開発を志していた競基弘さんの遺志を継ぐ形で創設された。日本レスキュー工学を担う人材を評価、後押ししている。」と話していた。

神戸新聞 2009年1月16日 朝刊 より